

社教連会報

発行 一般社団法人 全国社会教育委員連合

〒101-0065 東京都千代田区西神田3-1-6
日本弘道会ビル7階 TEL. 03-6380-8540

「ともにある」の実現が未来をつくる

全国社会教育委員連合副会長

清國 祐二

「開かれた学校」から「地域とともにある学校」へ、どうも地域と学校との関係性が少し変わってきたようです。「学校運営協議会（コミュニティ・スクール）」への移行もその流れの中で、努力義務から義務へと進んでいくのでしょうか。形式的に進めることは可能でしょうか、地域と学校が未来を背負って立つ子供を中心にするような協力関係を築けばよいのでしょうか。ここでは「と

もにある」という言葉に注目したいと思います。その「ともにある」とは何でしょうか。とても優しく温かい響きがあり、私はそこに母性を感じます。損得にとらわれず、ありのままを受け入れて、寄り添っているイメージを思い浮かべます。それは目的のところに、地域の子供の育ちや成長があるからでしょうし、過去から未来へ向けて持続する地域の姿があるから

抗うことはできないのですが、子供の育ちや成長に責任を果たすことが「仕事」になってきました。仕事である以上、プロフェッショナルが専門性を発揮してよく育てなければなりません。地域住民はアマチュアであり、無償のボランティアな関わりが前提とされます。立場の異なる両者が「ともにある」ことはそう容易ではなさそうです。さて、困難は伴いますが、その「ともにある」の実現こそが地域の未来をつくるのではないのでしょうか。



清國 祐二
(きよくに ゆうじ)

■プロフィール

昭和40（1965）年、大分県国東（くにさき）町出身。実家は半農半漁で、自然に囲まれて幼少期を過ごした。平成2（1990）年、広島大学大学院（社会教育学を専攻）を修了後、大分県の公立高校に勤務。平成5（1993）年に島根大学教育学部助手として採用され、平成14（2002）年に香川大学生涯学習教育研究センター助教授として採用されるまで勤務。平成30（2018）年より、香川大学地域連携・生涯学習センター長（現職）。平成18（2006）年より平成26（2014）年まで香川県社会教育委員連絡協議会会長。

第61回全国社会教育研究大会兵庫大会を終えて

滋賀のAさんに会いました。京都のBさんにも。一年ぶり。青森で会って以来です。長年、府県の社会教育委員連絡協議会会長を務められ、退任後も地域の振興のために頑張っておられるお二人です。

第61回全国社会教育研究大会兵庫大会は、全国各地から約1,200人の参加を得て、十月二十三日から二十五日まで、神戸ポートピアホテルで開かれました。熱っぽい議論と和やかな交歓が行われた三日間で、早くから大会準備に取り組んでくれた実行委員会のメンバーをはじめ、関係者の皆さま、協賛していただいた企業や団体に心からのお礼を申し上げます。とりわけ、高砂市からこの大会のアトラクションを盛り上げるために駆けつけてくれた兵庫県立高砂高校ジャズバンド部の生徒の皆さん、ありがとうございました。

「学びと実践の収穫祭」こころ豊穰inひょうご」を大会スローガンに、「多様性を認め合う、豊かな地域社会のための社会教育の実践」を研究主題としました。シンポジウムでは、神戸在住

の外国人、大学生にもシンポジストとして参加してもらいました。地域社会の一員として暮らす外国人や若者、高齢者など、異なる文化的背景をもつ人々や世代を超えた人々といかに共生していくかがこれからの社会の問題として問われていくと考えました。

「わかりあえないことから」多文化共生を目指す演劇教育」と題して、東京から兵庫県豊岡市に主宰する劇団の拠点を移された作家で演出家の平田オリザさんに記念講演をしていただき、シンポジウム、翌日の分科会へと連動するようにしました。今、豊岡市では、演劇をベースにしたコミュニケーション授業が全小学校で行われており、演劇を必修科目とする県立の専門職大学が二年後に開校の予定です。城崎温泉で知られるこの地には城崎国際アートセンターもあり、演劇のまちとしても注目されています。

多様な文化や価値観を認め合い、支えあいながら、ひとりひとりが参画できる、共生社会を、といわれませんが、社会教育はこの命題にどれだけこたえられるか、社会教育への期待とともに、研究大会がこうしたことを考える機会になったのであれば幸いです。六つの分科会はそれぞれ問題提起者と助言者を近畿各府県が協力して引き受けていただきました。分科会を順番に回りましたが、どこも活発なグループディスカッションが行われていました。過疎過密、急速にやってきた少子高齢化、グローバル化の進展と在留外国人の増加、コミュニティの衰退、つながりの希薄化。近畿各地が向き合う現実では、まさに日本が直面する現実であり、縮図であろうと思います。「分科会、よかったですよ。もつともつと話したかったし、聞きたかった」。こんな声をいただきました。参加者アンケートで9割の方々が「大変良かった」「よかった」と答えておられましたが、同じような問題意識を持っておられたからだと思います。

兵庫県下各地の社会教育委員、社会教育関係者、教育委員会が実行委員会のもとに、大会開催に向けて準備を進めたおよそ二年間、社会教育をもつと実のあるものに、という共



通の目標のために、お互いがパートナーであることを確認した大会でもありました。

滋賀のAさん、京都のBさん、一年後に新潟で会えることを楽しみに。参加された全国の社会教育委員、関係者の皆さま、ありがとうございました。

第61回全国社会教育研究大会兵庫大会

実行委員会委員長 上羽 慶市

第62回全国社会教育研究大会 新潟大会

第51回関東甲信越静岡社会教育研究大会新潟大会
第20回新潟県社会教育研究大会長岡大会

ご案内

未来につなぐ「米百俵」

～フェニックスの地ではじまるこれからの社会教育～

令和2年目を迎え、本格的に次の時代へ歩みを進める大会を新潟県で開催します。新潟県は南北に長く、それぞれの地域で、様々な表情を見ることができます。

今大会のテーマは、「未来につなぐ『米百俵(こめひゃっぴょう)』～フェニックスの地ではじまるこれからの社会教育～」です。開催地となる長岡市は、かつて戊辰戦争の戦場となり、焼け野原となりました。困窮する城下に支藩から米が届きますが、長岡藩大参事・小林虎三郎は「百俵の米も、食べばたちまちなくなるが、教育にあてれば明日の一万、百万俵となる」と人々を諭し、未来を見据え学校建設のために使います。その精神は、後に「米百俵の精神」と謳われるようになり、今も人々の心に息づいています。そして、この精神を今大会のテーマとしました。

また、今大会の研究主題は「新しい社会教育をデザインする～つなぎ はぐくみ 響きあう 生涯学習社会の実現～」です。社会教育には学校教育、家庭教育等と教育・支援によって結びつき、教育の中心的作用をはたすことが求められています。それを実現するためには「新しい社会教育をデザインする」ことが重要であるという視点にたつて設定された研究主題です。「デザイン」という言葉の語源は、素描を意味するデッサン(dessin)と同じく「計画や記号」という意味のラテン語designareであり、「思考や概念を組み立て、様々な媒体によって表現すること」「目的をもって具体的に立案・設計すること」などと解されています。他方、デザイン(design)のdeを冠詞として考え、記号的(sign)な美しさを脱する(de)という意味とする解釈もあります。本研究大会の研究主題で使用されている「デザイン」については、後者の意味で捉えていきたいと考えています。

新潟の地で、社会教育関係者が一堂に会し、新たな時代にふさわしい生涯学習社会について共に考え、5年後、10年後の社会教育をデザインしていける大会にしていきたいと思えます。

新潟県社会教育委員協議会会長

第62回全国社会教育研究大会新潟大会実行委員長 山田 智之

◇大会の概要

- 研究主題 新しい社会教育をデザインする ～つなぎ はぐくみ 響きあう 生涯学習社会の実現～
- 期 日 令和2年11月11日(水)～13日(金)
- 会 場 シティホールプラザ「アオーレ長岡」(長岡市大手通1丁目4番地10)他
- 大会日程

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	20:00
第1日 11/11 (水)							全国社教連 理事会 15:00～16:30		全国社教連 事務局会議 17:00～18:00		
第2日 11/12 (木)		全国社教連 総会 10:00～11:30	受付 10:30～12:15	アトラク ション 12:15～ 12:45	開会行事 (表参式) 12:50～13:40	記念講演 13:50～15:00	シンポジウム 15:10～16:40	閉会 行事		情報交換会 18:00～20:00	
第3日 11/13 (金)	受付	分科会 9:30～12:00									

5 分科会

テーマ	内容例(予定)
学校との関わり	学校と関わる事例
家庭との関わり	家庭教育関係の事例
地域との関わり	地域社会と関わる事例
社会教育施設との関わり	公民館をはじめとする社会教育施設に関わる事例
多様な人との関わり	外国人や障害を持たれている方と関わる事例

・分科会は、小グループを編成し、ワークショップを行ないます。

- 大会参加費 5,000円/人(参加資料代として)

令和元年度
地区別社会教育
研究大会

北海道地区

人生一〇〇年時代の

地域づくりと社会教育

「持続可能な地域創生と社会教育委員の役割」

第59回北海道社会教育研究大会
(十勝大会)は、10月10日、11日に帯

広市民文化ホールを主会場に、約
500名の参加を得て開催されました。

初日は開会式・表彰式の後、「誰
もが輝くプラチナ社会〜人生100
年時代の地域づくりと教育」と題し、

(株)三菱総合研究所理事長の小宮
山宏氏による記念講演。続いて、地

域に根ざし地域づくり、まちづくりに
チャレンジし続けている二人と高

校のボランティア部、クッキング部
の部員をパネリストとし、パネル

ディスカッション「令和の依田勉三」
応援シンポジウムが繰り広げられま

した。

2日目は、社会教育委員の役割・

家庭教育・青少年教育・シニア世代

の社会参加・地域の環境・地域づく
りの6つの分科会に分かれ、それぞ



れの討議の視点に基づき活発な意見
交換が行われ実り多い大会となりま
した。

多くの皆様の参加とご協力に感謝
申し上げますとともに、本大会で学ば
れたことが道内それぞれの地域にお
ける活動の中で役立てられますこと
を心から願っております。

北海道社会教育委員連絡協議会
会長 大島 峰夫

東北地区

「人生100年時代」に

おける社会教育の姿

「持続可能な地域社会をどう創るか」

第41回全国公民館研究集会・令和

元年度東北地区社会教育研究大会・

第64回東北地区公民館大会岩手大会
は10月17日、18日の両日、盛岡市の

マリオス及びアイーナを会場に
600名近くの参加を得て盛大に開
催されました。

1日目のアトラクションでは、「絆

の心象〜世界がぜんたい幸福である
ために〜」と題し、岩手県矢巾町立

矢巾北中学校特設合唱部による合唱
と大森健一氏による朗読の構成劇が

披露され、会場は大きな感動に包ま
れました。

記念講演では、特定非営利活動法
人インクルいわて理事長の山屋理恵

氏に「だれも孤立しない地域づくり
〜子ども食堂の取り組みから〜」と

題して講演いただき、地域交流や居
場所作りなど子ども食堂が担う幅広
い役割について学びを深めました。

2日目は5つの分科会に分かれ、
具体的な実践事例の発表に基づき、
有意義な意見交換が行われました。

多くの方々のご協力をいただき、
実り多き大会となりました。県内外
から参加いただいた皆様に厚くお礼

を申し上げます。
参加された皆様、本大会を通じ

て学ばれたことを、各地域で実践し
ていただくことを心から願っており
ます。

岩手県社会教育連絡協議会

会長 大橋 清司

関東甲信越静地区

今、時代が変わる 人が変わる

そして 社会が変わる！

「さあ動き出せ “学び” の先へ」

11月7日、8日、第50回関東甲信
越静社会教育研究大会埼玉大会を川

越市のウエスタ川越で開催致しまし
た。

大会は、台風上陸後の開催にもか
かわらず、大勢の参加者・スタッフ

が集い、1,000名を超える盛会
となりました。

初日は、高校生と専職による歓迎セレモニー、文教大学野島正也氏による基調講演、県内の老若男女をパネリストに迎えたシンポジウムを行いました。閉会行事では、新たな試みとして大会宣言を実施いたしました。

二日目の分科会では、事例研究を中心とした会場とグループ協議を中心とした会場に分けて開催し、「勉強したい」「話したい」といったニーズに応えられるように致しました。

企画検討、資金集め、スタッフの体制等、これまでの大会の良さを大いに取り入れつつも、新しい視点を意識し、新鮮に取り組ませていただきました。今後も、社会教育ならではの柔軟性を大切に大会が続いてい



くことを願っています。皆様の御協力、誠にありがとうございます。

埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会

会長 西村 平雪

東海北陸地区

誰もが参加したい社会教育の推進

〜つながる∞つながる社会教育の力〜

第50回東海北陸社会教育研究大会(三重大会)は、10月10日、11日に県総合文化センターを会場に、約600名の参加を得て開催されました。学びを通じた参加者同士のつながりを大切にと、記念トークライブ、グループ討議、情報交換会等を新たな試みとして企画・運営いたしました。

一日目の記念トークライブでは、

全国社会教育委員連合鈴木真理会長と本協議会長島りょうがん理事の軽妙な掛け合いの中に社会教育の本質に迫るお話をいただきました。鈴木会長の飾らないメッセージに、参加した皆が、真に社会教育に向き合う意義を学び、原点にかえりました。

二日目の分科会では、5つのテーマ(「家庭教育支援」「青少年の健全育成」「地域文化の振興」「地域の活性化」「社会教育委員の役割と課題」)に分かれ、実践発表を基に、少人数グループによる研究協議が行われ、語りを通して近しい関係性が醸成されました。

多くの皆様にご参加ご協力賜り、多い大会となりました。心からありがとうございます。

三重県社会教育委員連絡協議会
会長 山口 恵照

中国・四国地区

「晴れの国おかやま」から未来へ発信、学びの果実を広げよう！

〜持続可能な社会を創るために〜
第42回中国・四国地区社会教育研究大会岡山大会が、11月7日、8日の2日間、岡山市において、554



人の参加を得て開催されました。

大会一日目は、小学生、中学生、高校生が伝統文化を継承している備中神楽育成会の皆さんによる備中神楽が披露され、開会。その後は、菅公学生服株式会社代表取締役社長、尾崎茂氏による記念講演や「子どもも大人も学び合い、成長し合える地域づくりの秘訣」をテーマにパネルディスカッションなどを行いました。

大会二日目は、「学校・家庭・地域の連携と協働」、「社会教育委員の活動」、「家庭教育支援」、「地域づくり」の4分科会に分かれて、これからの社会教育の推進に向けて熱心に協議が行われました。

今大会が、中国・四国地区の多くの皆様の御参加と御協力により、実り多い大会となりましたことに心から感謝申し上げますとともに、各地区での益々の社会教育の推進につながっていくことを願っております。

岡山県社会教育委員連絡協議会
会長 熊谷 慎之輔

九州地区

社会教育や公民館の隘路を拓く

くがばいつながろー人と人々

第49回九州ブロック社会教育研究大会佐賀大会は、社会教育や公民館をめぐる隘路を切り拓くことを目的として、社会教育委員と公民館関係者とで共通テーマを設定し、全国・九州地区公民館研究大会と合同開催しました。

大会は令和元年8月に開催予定でしたが、大会前日未明から佐賀県内は集中豪雨に見舞われ甚大な被害となり開催中止となりました。しかし延期開催を望む声が多く、全体会のみの規模に変更して開催いたしました。

シンポジウムでは、『社会教育法制定70周年：そして地域のこれから』をテーマに掲げ、基調報告・シ



合同佐賀大会実行委員長・佐賀県社会教育委員連絡協議会
会長 上野 景三

ンポジストとして牧野篤東京大学大学院教授、清水明前文部科学省総合教育政策局長、江頭明文長崎県社会連会長、田中みさ子佐賀市立南川副公民館主事にご登壇いただきました。社会教育委員と公民館の存在意義を共に考え、輝く未来に繋げていく公開討論を実施しました。

大会テーマのとおり、課題をチャ

ンスと捉え隘路を拓き、来るべき地

域社会の未来を見据えた社会教育・

公民館の役割について考える機会と

なりました。

北から南から

生涯学習五十年

秋田からの発信

秋田県社会教育委員連絡協議会

会長 加藤 寿一



秋田県社会教育委員連絡協議会は、県内全ての社会教育委員で構成され、総会、表彰、全体研修会、ブロック研修会を開催している。全国的には珍しいようだが、市町村からの負担金と個人会費で運営していることから、「社教情報」を会の予算で購入し、市町村教育委員会と全委員に配付することで、委員の資質向上を図っている。

役員は会長を秋田県社会教育委員の会議の議長が兼務し、県教育委員会との連携を密にしている。理事は

県内九ブロックから選出され、年四回役員会を開催している。事務局は教育庁生涯学習課が担当している。

ここで、秋田の社会教育・生涯学習の歴史を振り返ってみる。昭和四十五年四月、生涯教育プロジェクトチームを設置し、全国に先駆けて「いつでも、どこでも、だれでも」を合い言葉に、社会の変化に対応した生涯学習の推進に取り組んだ。昭和四十六年に秋田県社会教育委員連絡協議会を設立。昭和五十一年には秋田県生涯学習奨励員協議会が設立された。また、昭和五十五年には全国で初めて秋田県生涯教育センターを開所している。

このように秋田は生涯学習の先進県であり、どこよりも早く設置された県生涯学習センターや全二十五市町村で活動されている生涯学習奨励員（秋田県独自の制度）や社会教育委員が中核となり、多くの活動が県内各地で展開されてきた。近年は、生涯学習で学んだことを行動に結び付ける「行動人」の育成など先進的な取組を続けている。そうした活動を通じて県民に培われた大きな資産が、子供たちの規律ある生活習慣、落ち着いた学習態度などの力である。これらの力が学力トップクラス

常連の底力になっていると考えている。

令和二年度は生涯教育プロジェクトチーム設置五十周年にあたる。この記念すべき年に、秋田市を会場に東北地区社会教育研究大会を開催する。現在、実行委員会を立ち上げ、準備を進めているところである。大会の研究主題は「新たな時代、今、求められる社会教育の力、生涯学習五十年をむかえる秋田からの発信」である。青年教育や公民館振興に貢献した鈴木健次郎氏、生涯教育の推進モデルを構築した小畑勇二郎氏、全国社会教育委員連合第五代会長宮越道晃氏等、秋田の偉大な先人に敬意を表しながら、初心にかえって、今後の地域における社会教育の役割である社会教育を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくりに取り組むためのきっかけになる大会としたい。

そして、多様化し複雑化する地域社会において、持続可能な社会づくりを進めるため、秋田県社会教育委員連絡協議会が「ワン チーム」となり、社会教育委員自らが地域運営の担い手となって主体的に関わっている姿を全国に発信する機会とした。

社会教育による

地域づくり

石川県社会教育委員連絡協議会

会長 持木 一茂



近年、我が国では少子高齢化が急速に進み、都市圏への人口集中の傾向も継続しておりますことから、若者を中心に人口が大幅に減少する深刻な事態を迎えている地域も多いと伺っております。他ならぬ当県もこの問題に直面しております。

こうした中、平成30年12月に中央教育審議会から出された答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けて社会教育の振興方策について」では、「地域づくり」が社会教育に期待される役割の一つとして掲げられたところです。社会教育における学びの場には、住民相互が認め合う中、

対話や議論を通じて地域に対する愛着・誇り・帰属意識を育み、よりよい地域づくりに取り組んでいくこととする意欲を喚起していくことが求められています。

本県の社会教育委員の会議では、昨年度から協議のテーマを「地域の社会教育関係団体の現状と今後の課題」とし、県内外の事例をもとに、社会教育関係団体の役割や方向性について議論を進めているところであります。協議では、社会教育関係団体がNPOや行政、市町の社会教育委員等と連携し地域課題に積極的に関与することで、住民の主体的参画を促すことができるとの意見もあがっており、こうした機運がそれぞれの地域で醸成されていくためには、社会教育に関わる者同士の情報共有やネットワークが構築されることが求められます。

当協議会では、年に一度、県内の社会教育委員や社会教育に携わる行政職員が一堂に介する研究大会を開催し、情報共有の場を提供しております。また当協議会は、毎年県内3つの市町に研究奨励費を交付し、社会教育に関する研究に励んでいただいております。前述の研究大会はその成果を発表する場でもあります。

今年度の大会ではいずれの市町からも、地域の担い手を育成するための取組みをご報告いただきました。子どもサミットを開催し、どうすれば自分の住む町がよりよくなるか、子供自身が自発的に考えるきっかけを作ったもの。ふるさとを愛する気持ちを子供たちに育むため、地元公民館の多様な取り組みを調査研究し、情報提供を行うもの。近隣にある登山道の清掃活動に幅広い年齢層の子供に参加してもらい、年長の高校生リーダーシップを養成しようとするもの。目的は同じでも、その手段には様々なものがあることを改めて実感させられたところです。

地域によって求められるものは異なりますが、各市町が実情に応じたよりよい地域づくりに取り組んでいくよう、今後とも多様な情報を提供し、支援してまいりたいと考えております。



事務局だより

令和元年度
第4回理事会・総会について

令和元年度第4回理事会・総会を3月6日(金)に日本弘道会ビル8階講堂にて開催する予定です。

議題は①令和2年度事業計画(案)・収支予算(案)②第62回全国大会(新潟大会)③第63回全国大会(石川大会)④第64回全国大会(広島大会)⑤その他等を予定しております。

令和2年度
第1回理事会・総会について

令和2年度第1回理事会・総会を、5月22日(金)に日本弘道会ビル8階講堂にて開催する予定です。

議題は①令和元年度事業報告・決算報告②第62回全国大会(新潟大会)③第63回全国大会(石川大会)④第64回全国大会(広島大会)⑤その他等を予定しております。



令和2年度 社会教育研究大会一覽(予定)

全国大会	(新潟大会)	11月11日(水)～13日(金)	新潟県(長岡市)
北海道地区	(渡島大会)	10月8日(木)～9日(金)	渡島管内(函館市)
東北地区	(秋田大会)	10月29日(木)～30日(金)	秋田県(秋田市)
関東甲信越静地区	→ 全国大会合同開催(新潟県)		
東海北陸地区	(愛知大会)	10月15日(木)～16日(金)	愛知県(東海市)
近畿地区	(大阪大会)	9月11日(金)	大阪府(堺市)
中国・四国地区	(愛媛大会)	11月5日(木)～6日(金)	愛媛県(松山市)
九州地区	(沖縄大会)	11月19日(木)～20日(金)	沖縄県(読谷村・嘉手納町)
指定都市		7月3日(金)	福岡県北九州市

社会教育の明日を拓く

社教情報 No.82

特集テーマ 社会教育委員の研修

〈巻頭言〉 社会教育委員が研修を行う意味

文教大学教授 金藤 ふゆ子

〈特集〉 関弘紹、蛭名博人・菅原綾、知久鉄平、眞如智子、松田愛子

〈この人に聞く〉 清國祐二氏

書き手 清國 祐二

〈思考と提言〉 「行動する社会教育委員」は、いかに行動すべきか

神部 純一

〈社会教育委員活性化セミナー報告〉 山形県庄内地区「地域とともにある学校づくり」研修会

〈社会教育委員の手引き等を読む〉 東京都あきる野市「社会教育委員基本資料集」解説 安藤 耕己

〈答申・提言〉 「地域と学校の協働による生涯学習の推進について」(意見具申)解説 白井 淳子

〈社会教育委員Q&A〉 「人と人とのつながりづくり」と社会教育 神部 純一

編集・発行 (一社) 全国社会教育委員連合
TEL 03(6380)8540 FAX 03(6380)8541

社教情報

